23 年センター試験実施速報（平均点等「中間発表」）

23 年センター試験平均点（中間集計/900 点満点：加重平均）、文系型 18.8 点アップの 536. 7点、理系型 18.2 点アップの 535. 3点！

基幹科目の数学Ⅰ・Ａ大幅アップ、国語アップで、文･理系型とも
3 年ぶりに大幅アップ。英語は前年並み。
物理Ⅰ、化学Ⅰのアップで「理系志望」に一段と“追い風”。

旺文社　教育情報センター　23 年 1 月 20 日

23 年センター試験（本試）が 1 月 15 日（土）･16 日（日）の両日、全国 706 試験場で実施された。

全国的な厳しい寒さの中、大雪による交通機関の乱れなどで、約 5,600 人の受験生に試験時間の繰り下げ措置が講じられた。大学入試センターが 1 月 19 日発表した各科目の平均点等の中間集計を基に、文系･理系の標準型「5（6）教科 7 科目（900 点満点）」の加重平均点を算出した。

文系型 536.7 点、理系型 535.3 点で、ともに 3 年ぶりの大幅アップである。科目別では数学Ⅰ･Ａ、国語といった基幹科目のほか、物理Ⅰと化学Ⅰもアップ。理系志望者にとっては、“追い風”となりそうだ。

一方、英語はリスニングのダウンが響き、ほぼ前年並み。数学Ⅱ・Ｂ、生物Ⅰはダウン。

長引く経済不況と雇用情勢の悪化を受け、国公立大志向、地元志向が予測される中、就職に強いとされる理系や採用に有利な資格志向が一段と強まるとみられる。各科目の平均点等の最終確定は、2 月 3 日に発表される予定である。

■志願・受験状況

＜志願状況：志願者数約 55 万 9,000 人で、3 年連続の増加＞

① **志願者数、前年より 5,616 人増**：23 年センター試験(以下、セ試)の志願者数は、前年比 1.0%増の 55 万 8,984 人で、3 年連続の増加。

② **“現役生”は 3 年連続、“既卒者”は 2 年連続の増加**：現役生は 20 年に減少したが、21～23 年と 3 年連続の増加。現役生の志願者数は、今春の高卒者数の減少(予測)にもかかわらず、過去最高のセ試現役志願率 41.5%に支えられ、22 年より 2,273 人(0.5%)増の 44 万 2,421 人だった。

一方、既卒者は 22 年より 3,558 人(3.3%)の大幅増で、2 年連続の増加である。

③ **志願者増の主な背景**：

- 今春の高卒者数は 22 年より減少が見込まれているものの、現役生の大学志願率が近年上昇傾向にあり(19 年 51.8%→20 年 53.5%→21 年 54.9%→22 年 55.7%)、セ試出願

©2011 旺文社 教育情報センター
『パスナビ for Teachers』

の現役志願率を高め(23 年は過去最高の 41.5%)、結果として現役増につながっている。

- 厳しい経済状況であるが、就職情勢の悪化なども踏まえ、国公立大志向、就職に有利な有力(難関)大学・学部志向、資格志向などの一層の高まりと、前年のセ試難化(平均点大幅ダウン)などで不本意入学した、所謂“仮面(合格)浪人”等、“初志貫徹組”なども含めた既卒者の大幅な増加。
- 新見公立大、福山市立大など、公立 4 大学のセ試を利用する分離分割方式への参入、私立大のセ試参加増(10 大学 43 学部増の 504 大学 1,447 学部。22 年 10 月末現在)と短大の参加増(3 短大増の 163 短大。同)。
- 推薦・AO 入試などで年内(22 年)に大学進学を決めてしまう“早期受験(合格)組”に対し、学習意欲や学力の維持・向上策の一環として、高校側におけるセ試の活用。

＜受験状況：各教科とも受験者増。理科②は 1 万 4,000 人、6.1%の大幅増＞

第 1 日目(1 月 15 日)と第 2 日目(16 日)の受験状況は、下表のとおりである。

◇[第 1 日目](1 月 15 日)

教科等		23 年受験者(対前年比)	23 年受験率(対前年比)	22 年受験者	22 年受験率
公　民		325,082 人(＋2.5%)	58.2%(＋0.9 ﾎﾟｲﾝﾄ)	317,003 人	57.3%
地　歴		367,366 人(＋0.9%)	65.7%(－0.1 ﾎﾟｲﾝﾄ)	363,977 人	65.8%
国　語		505,028 人(＋1.5%)	90.3%(＋0.4 ﾎﾟｲﾝﾄ)	497,401 人	89.9%
外国語	筆　記	520,396 人(＋1.4%)	93.1%(＋0.3 ﾎﾟｲﾝﾄ)	513,267 人	92.8%
	英　語 ﾘｽﾆﾝｸﾞ	513,576 人(＋1.3%)	91.9%(＋0.3 ﾎﾟｲﾝﾄ)	506,912 人	91.6%

◇[第 2 日目](1 月 16 日)

教科等	23 年受験者(対前年比)	23 年受験率(対前年比)	22 年受験者	22 年受験率
理科①	211,372 人(＋5.1%)	37.8%(＋1.5 ﾎﾟｲﾝﾄ)	201,064 人	36.3%
数学①	386,325 人(＋2.2%)	69.1%(＋0.8 ﾎﾟｲﾝﾄ)	377,851 人	68.3%
数学②	349,908 人(＋3.3%)	62.6%(＋1.4 ﾎﾟｲﾝﾄ)	338,887 人	61.2%
理科②	251,498 人(＋6.1%)	45.0%(＋2.2 ﾎﾟｲﾝﾄ)	237,074 人	42.8%
理科③	179,372 人(＋4.5%)	32.1%(＋1.1 ﾎﾟｲﾝﾄ)	171,730 人	31.0%

注 1．外国語の「筆記」は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語。「リスニング」は英語のみ。
　2．受験者数・受験率は 22・23 年とも、速報値(試験実施当日発表)。
　3．受験率(%)＝受験者数÷志願者数×100

- 各教科(受験枠)の受験状況をみると、セ試志願者の増加を反映し、各教科とも受験者増となっている。例年、最も受験者の多い外国語(筆記)の受験者は 52 万 396 人(受験率 93.1%)で、前年より約 7,000 人、1.4%増であった。

第 2 日目の数学、理科といった理系教科の受験者数は、第 1 日目の文系教科に比べて大幅な増加が目立ち、理系志望者の増加がうかがえる。中でも理科は①～③の各受験枠で前年比 5、6%程度増加しており、特に理科②(理科総合Ａ、化学Ⅰ)は前年より約 1 万 4,000 人、6.1%の大幅増である。化学Ⅰの平均点が前年大幅にダウン(－15.8 点)したにもかかわらず、国公立大文系志望者の受験が比較的多くみられる理科②の受験者が大幅に増加

©2011 旺文社 教育情報センター
『パスナビ for Teachers』

したことは、国公立大志向の高まりを示していよう。

数学も①、②で受験者がそれぞれ 2、3%程度増加している。

● 他方、第 1 日目の文系教科の受験者数をみると、公民以外、各教科とも前年比 1%程度の増加に留まっている。公民は前年、各教科で軒並み平均点ダウンとなったにもかかわらず、23 年は約 8,000 人、2.5%増加している。これは先述した国公立大の理系志望者を中心とした受験者増に起因しているとみられる。

● 英語リスニングテスト(以下、リスニング)は、現行課程入試が開始された 18 年から導入され、23 年で 6 回目となる。22 年から IC プレーヤーの形状を従来の縦長(長方形)から正方形に変えたり、「電源」「確認」「再生」の各押しボタンの位置を変更したり、様々な改良が施された。

さらに今回から、前年の試験終了後に回収された IC プレーヤーを修理、点検して再利用している。IC プレーヤーの不具合などから全国で 98 人(前年は 220 人)が、リスニング終了後(第 1 日目)に別の機器で「再開テスト」を受けた。

＜「追・再試験」受験許可状況＞

● 「追・再試験」の受験許可状況は下表のとおりで、東京海洋大と京都大で 1 月 22 日(土)・23 日(日)に実施される予定である。

地　　区	試験場大学	受験許可者数	事　由	
			疾病・負傷	事故等
東日本	東京海洋大	252 人	246 人	6 人
西日本	京都大	173 人	168 人	5 人
合　　計		425 人 (972 人)	414 人 (838 人)	11 人 (134 人)

注.(　)内数字は、22 年の「追・再試験」の受験許可者数。大学入試センター　23 年 1 月 19 日発表。

■科目別平均点等(中間集計：大学入試センター発表、1 月 19 日)

主な科目の前年との平均点差や出題内容等をみてみよう。

● 平均点がアップした主な科目は、数学Ⅰ・A(前年中間集計値との差。以下、同。＋16.4 点)、物理Ⅰ(＋9.0 点)、国語(＋3.6 点)、化学Ⅰ(＋2.7 点)、現代社会(＋2.7 点)、日本史 B(＋2.2 点)、世界史 B(＋2.1 点)、地理 B(＋1.0 点)など。

● 一方、平均点ダウンの主な科目は、生物Ⅰ(－5.8 点)、数学Ⅱ・B(－4.7 点)、地学Ⅰ(－1.7 点)、英語(－0.5 点。「筆記」＋3.7 点／「リスニング」－4.4 点)など。

○ **英語**：「筆記」はアップしたものの、「リスニング」のダウンが響き、「筆記＋リスニング」(加重平均による得点率＜59.54%＞を基に 200 点満点に換算)は－0.5 点と、前年をわずかに下回った。

「筆記」の出題形式は全体を通して前年とほぼ同じで総語数はやや増加したが、第 6 問の長文読解の語数はやや減少。全体的に標準的な問題で、速読速解力を身につけておけば十分対応でき、全体としてはやや易化し、平均点もアップしたとみられる。

「リスニング」は形式、内容ともほぼ前年を踏襲。英文量がやや増加して、読み上げ

©2011 旺文社 教育情報センター
『パスナビ for Teachers』

速度がやや速くなったことや、聴き取った情報を基に総合的、かつ的確に判断する問題など、前年より難化したようだ。

- **国語**：例年通りの出題構成と分野(近代以降の文章 2 題＜評論・小説＞、古文 1 題、漢文 1 題)で、設問数は前年と同じだが、解答数が 1 つ増えた。問題文の分量は評論、小説、古文及び漢文とも増加。漢文が学問についての論理的な内容の出題で難化したほかは、全体としては前年並みかやや易化し、平均点アップにつながったようだ。

  ただ、国公立大ではほとんどが古文・漢文を必答としており、特に国公立大理系志望者にとって、漢文は厳しかったとみられる。

- **数学**：前年、大幅な平均点ダウンとなった数学Ⅰ・A(前年の確定時 49.0 点で、－15.0 点)が大幅アップしたのに対し、前年アップの数学Ⅱ・B(同。57.1 点で、＋6.3 点)がダウンしている。

  数学Ⅰ・Aの問題数、出題構成は前年と同じだが、第 1 問〔1〕の根号を含む式の計算など、計算問題の計算方法如何によっては時間的に厳しかったとみられる。前年、大幅な平均点ダウンの要因の一つになったとみられる第 3 問(図形と計量、平面図形)、及び第 4 問(場合の数と確率)に、解答へ導く前年以上の丁寧な誘導がつくなど、全体として易化しており、大幅な平均点アップにつながったようだ。

  数学Ⅱ・Bは出題形式、出題分野とも前年と同様である。難易度としては比較的平易な出題であった前年に対し、今回は標準的な問題といえよう。ただ、第 1 問〔2〕の対数不等式に教科書では見かけない式が出されたり、選択問題の第 3 問(数列)にセ試としては珍しい数直線上の点を題材とした階差数列が扱われたり、戸惑った受験生も少なくなかったとみられる。

- **地歴**：前年平均点ダウンした世界史Bに文化史の出題増や年代整序問題の復活などがみられたが、全体的には基本問題が多い。難易度は前年並みで、平均点はアップしている。

  文系志望者の受験が多い日本史Bは、政治史の問題が減少し、社会経済史と文化史からの出題が増加。全体として基本的な問題が中心で、平均点はアップ。

  理系志望者の受験が比較的多い地理Bは、組み合わせ式の選択問題が増え、出題形式上の繁雑さは増したものの、全体的には標準的な出題で、平均点はややアップ。

- **公民**：前年、各科目とも平均点ダウンしたが、23 年は現代社会のアップとともに、倫理、政治・経済とも、ほぼ前年並みながら、中間集計時点ではわずかにアップしている。

  例年、公民の中では受験者が最も多い現代社会は、課題探究型(調べ学習)の出題が復活したものの、大問数、小問数とも前年と変わらなかった。全体の難易度がやや易化し、平均点アップにつながったようだ。

  倫理は幅広い分野からの出題で、大問数や解答数は前年と変わらないが、選択肢の長文化などから解答に時間を要したとみられる。

  政治・経済は、出題の分量は前年と変わらないが、時事問題や資料・図表を使った論

©2011 旺文社 教育情報センター
『パスナビ for Teachers』

理的思考力をみる問題が増加した。

- **理科**：理系志望者に必須といえる物理Ⅰの 9.0 点アップに加えて化学Ⅰも 2.7 点アップし、文系志望者の受験が比較的多い生物Ⅰ、地学Ⅰのダウンと対照的で、前年とはまったく逆の現象となっている。

  物理Ⅰの大問数は変わらず、解答数が 1 つ減った。基本的、定性的な出題の増加、計算問題の減少などが平均点アップにつながったとみられる。

  化学Ⅰは大問数、解答数とも前年と同様であるが、内容的には全体として標準的な出題で、正誤問題の増加や複雑な計算を要する計算問題の減少などが平均点アップにつながったようだ。

  生物Ⅰは、大問数は前年と同じだが、小問数が 5 問、解答数が 3 つ増え、選択肢の分量や実験考察問題の増加など、解答に時間的な負担を強いられたようだ。

  地学Ⅰは基本事項についての基礎的な知識問題が大半であるが、計算問題や読図問題も出題されており、特に第 5 問・Ａの「年周視差」に関する出題は難易度の高い内容で、戸惑った受験生も少なくなかったとみられる。

● 大学入試センターから発表された科目別平均点と受験者数（中間集計）をもとに旺文社が算出した 5(6)教科 7 科目（900 点満点）の加重平均点は、次のとおり。

- **文系標準型**（地歴と公民各 1 科目、理科 1 科目）；**536.7 点（＋18.8 点）**
- **理系標準型**（地歴と公民合わせて 1 科目、理科 2 科目）；**535.3 点（＋18.2 点）**
- ここでの文系型、理系型の平均点は、私立大型を含む全受験者の「加重平均」を集計したものである。実際の理系志望者（5 教科 7 科目）は、平均点が 9.0 点アップした物理Ⅰと 2.7 点アップした化学Ⅰに加え、理系志望者の受験が多い現代社会も 2.7 点アップしたことから、文系志望者に比べ、よりアップすることが予測される。

  また、理科は、文系志望者の受験が多い生物Ⅰと地学Ⅰの平均点がダウンしていることから、文系志望者と理系志望者との平均点差は大きく開くとみられる。

  ところで、本稿で集計した「加重平均点」では、理系標準型の理科 2 科目集計において物理Ⅰ・化学Ⅰのアップと、生物Ⅰ・地学Ⅰのダウンとが相殺されることになる。

  一方、文系標準型では、軒並み平均点アップとなった地歴（Ｂ科目）・公民の 2 科目集計となる。その結果、理系標準型と文系標準型との平均点差は、理系標準型の方がわずかに低く、実際の理系志望者と文系志望者との平均点差とは逆の形になっている。
- **文・理系型共通の 5 教科 6 科目平均点**（地歴と公民合わせて 1 科目、理科 1 科目の 800 点満点を 900 点満点に換算）；**532.1 点（前年中間集計値との差、＋19.3 点）**

● 得点調整の対象科目間の平均点較差をみると、**地歴：地理Ｂ－世界史Ｂ＝3.7 点／公民：倫理－政治･経済＝9.7 点／理科：地学Ⅰ－化学Ⅰ＝10.6 点。**

得点調整は、対象科目間の平均点較差が 20 点以上で、それが問題の難易差に基づく場合に実施される。現時点では、いずれも 20 点以内に収まっており、得点調整は実施されない模様。実施の有無については 1 月 21 日（金）、大学入試センターから発表される予定。

©2011 旺文社 教育情報センター
『パスナビ for Teachers』

■物理Ⅰ、化学Ⅰの平均点アップで、理系志望者には“追い風”！

● 大学進学率が 50%を超え、“大学全入”時代とまでいわれている一方で、受験生は先行き不透明な厳しい経済環境に置かれている。

受験生の間では、学費の安い国公立大志向、進学コストを抑えられる地元志向に加え、今春卒業予定の大学生の就職内定率 68.8%(就職希望者対象の抽出調査。22 年 12 月 1 日時点)という過去最低の“超就職氷河期”の 4 年先を見越して、就職・キャリア形成に有利な資格志向、理系志望の動きが例年以上に強まるとみられる。

● こうした動きの中、セ試の 5(6)教科 7 科目の平均点アップに加え、物理Ⅰの 9.0 点アップと化学Ⅰの 2.7 点アップは、理系志望者にとって一層の“追い風”となろう。

また、数学Ⅰ・Aの 16.4 点の大幅アップは、国立大教員養成課程の文系志望者などにとって、好材料となろう。

● 23 年国公立大入試については、その出願を巡って、セ試平均点の大幅アップに支えられた難関大(学部)も視野に入れた“強気出願”と、厳しい経済状況や 24 年からの難関大を中心としたセ試「地歴・公民」の受験負担増などによる“浪人回避”との狭間で、逡巡する受験生も少なくないであろう。

● 私立大入試については、受験コストの軽減にもつながるセ試利用入試への出願増、及び併願の絞込みなどが一層顕著になろう。

また、難関国公立大(学部)志望者のセーフティーネットとして、私立難関大(学部)のセ試利用入試への出願増もみられよう。

☆　☆　☆

次ページに、**「23 年センター試験平均点等一覧」(中間集計)**を掲載。

©2011 旺文社 教育情報センター
『パスナビ for Teachers』

●平成23年度大学入試センター試験平均点等一覧(中間集計)

＜平成23年1月19日　大学入試センター発表＞

教科名		科目名		平成23年(中間) 受験者数	平成23年(中間) 平均点	平成22年(中間) 受験者数	平成22年(中間) 平均点	平均点の対前年差
文系標準型平均点(900点満点)				—	536.7	—	517.9	18.8
理系標準型平均点(900点満点)				—	535.3	—	517.1	18.2
国語(200点)		国語		219,187	109.2	219,642	105.6	3.6
地理歴史(100点)		世界史A		942	50.0	1,008	52.9	▲ 2.9
		世界史B		40,141	63.1	42,481	61.0	2.1
		日本史A		1,910	51.8	1,888	48.0	3.8
		日本史B		65,245	64.8	66,749	62.6	2.2
		地理A		2,320	53.5	2,037	53.8	▲ 0.3
		地理B		35,191	66.7	33,215	65.7	1.0
公民(100点)		現代社会		58,032	62.3	52,597	59.6	2.7
		倫理		25,037	70.1	25,106	69.6	0.4
		政治・経済		37,975	60.3	40,009	60.2	0.1
数学	数学①(100点)	数学Ⅰ		3,612	45.1	4,225	42.4	2.7
		数学Ⅰ・A		142,811	66.2	152,082	49.8	16.4
	数学②(100点)	数学Ⅱ		2,903	33.4	3,091	37.5	▲ 4.1
		数学Ⅱ・B		125,079	53.9	136,800	58.7	▲ 4.7
		工業数理基礎		5	40.2	6	46.5	▲ 6.3
		簿記・会計		355	47.3	443	36.9	10.4
		情報関係基礎		188	63.3	227	60.8	2.5
理科	理科①(100点)	理科総合B		6,771	55.2	5,178	64.9	▲ 9.7
		生物Ⅰ		63,715	64.6	65,413	70.4	▲ 5.8
	理科②(100点)	理科総合A		9,543	58.9	8,089	66.9	▲ 8.1
		化学Ⅰ		79,524	57.3	80,949	54.7	2.7
	理科③(100点)	物理Ⅰ		57,847	64.2	58,950	55.2	9.0
		地学Ⅰ		8,822	68.0	8,757	69.7	▲ 1.7
外国語(200点)		英語	筆記(200点)	224,266	123.5	224,219	119.8	3.7
			リスニング(50点)	218,214	25.3	221,357	29.7	▲ 4.4
			筆記+リス(200点)	—	119.1	—	119.6	▲ 0.5
		ドイツ語		91	143.4	91	152.8	▲ 9.4
		フランス語		120	138.4	144	136.5	2.0
		中国語		219	139.0	213	139.7	▲ 0.7
		韓国語		96	146.7	108	147.8	▲ 1.1

＜注＞① 文系標準型平均点(900点満点)は、国語(200点)、地歴(100点)、公民(100点)、数学①(100点)、数学②(100点)、理科(①、②、③合わせて集計100点)、外国語(200点;英語は筆記＜200点＞＋リスニング＜50点＞の得点率を基に200点換算)の加重平均点。

② 理系標準型平均点(900点満点)は、上記文系型の地歴と公民を合わせ(1教科として集計100点)、理科を2科目(①、②、③の各加重平均点の合計×2/3＝200点)、とする5教科7科目の加重平均点。

③ 文系・理系とも、大学入試センター発表の科目別平均点(小数第2位まで)と受験者数をもとに旺文社が算出(小数第1位まで)。

④ 表中の「平均点の対前年差」は、四捨五入の関係で「23年－22年」と一致しない場合もある。▲印はダウンを示す。

⑤ 5教科6科目(文系・理系共通の800点満点を900点満点に換算)の加重平均点は532.1点で、22年(中間発表)より19.3点のアップ。

⑥ 地歴(各B科目間)、公民、理科(各Ⅰ科目間)における得点調整は、「地学Ⅰ」－「化学Ⅰ」の10.6点が最大で、実施されない模様。

©2011 旺文社 教育情報センター
『パスナビ for Teachers』